

【薬理／実務、薬剤／実務】

◎指示があるまで開いてはいけません。

注 意 事 項

- 1 試験問題の数は、問246から問285までの40問。
13時から14時40分までの100分以内で解答すること。
- 2 解答方法は次のとおりである。
 - (1) 一般問題（薬学実践問題）の各問題の正答数は、問題文中に指示されている。
問題の選択肢の中から答えを選び、次の例にならって答案用紙に記入すること。
なお、問題文中に指示された正答数と異なる数を解答すると、誤りになるから注意すること。

(例) 問500 次の物質中、常温かつ常圧下で液体のものはどれか。2つ選べ。

- | | | |
|-----------|-----------|--------|
| 1 塩化ナトリウム | 2 プロパン | 3 ベンゼン |
| 4 エタノール | 5 炭酸カルシウム | |

正しい答えは「3」と「4」であるから、答案用紙の


問500 ¹ ² ³ ⁴ ⁵ ⁶ ⁷ ⁸ ⁹ ¹⁰ のうち ³ と ⁴ を塗りつぶして
問500 ¹ ² ³ ⁴ ⁵ ⁶ ⁷ ⁸ ⁹ ¹⁰ とすればよい。

- (2) 解答は、○の中全体をHBの鉛筆で濃く塗りつぶすこと。塗りつぶしが薄い場合は、解答したことにならないから注意すること。

悪い解答例



(採点されない)

- (3) 解答を修正する場合は、必ず「消しゴム」で跡が残らないように完全に消すこと。
鉛筆の跡が残ったり、「」のような消し方などをした場合は、修正又は解答したことにならないから注意すること。
 - (4) 解答用紙は、折り曲げたり汚したりしないよう、特に注意すること。
- 3 設問中の科学用語そのものやその外国語表示（化合物名、人名、学名など）には誤りはないものとして解答すること。ただし、設問が科学用語そのもの又は外国語の意味の正誤の判断を求めている場合を除く。
 - 4 問題の内容については質問しないこと。

一般問題（薬学実践問題）【薬理／実務】

問 246-247 34 歳女性。統合失調症が疑われて入院した。幻覚、妄想は処方 1 により軽減したが、乳汁分泌が生じた。血液検査の結果を確認した薬剤師の提案により処方 2 に変更となった。

(処方 1)

リスペリドン内用液 1 mg/mL 1 回 2 mL (1 日 4 mL)
1 日 2 回 朝夕食後

(処方 2)

オランザピン 10 mg錠 1 回 1 錠 (1 日 1 錠)
1 日 1 回 夕食後

問 246 (実務)

処方変更の根拠となった血液検査項目はどれか。1 つ選べ。

- | | | |
|-----------|-----------|------------|
| 1 プロラクチン | 2 コルチゾール | 3 エストラジオール |
| 4 テストステロン | 5 アルドステロン | |

問 247 (薬理)

処方 1 でリスペリドンが乳汁分泌を引き起こす作用機序として、正しいのはどれか。1 つ選べ。

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 ヒスタミン H_1 受容体遮断 | 2 セロトニン $5-HT_{1A}$ 受容体遮断 |
| 3 アセチルコリン M_2 受容体刺激 | 4 ドパミン D_2 受容体遮断 |
| 5 アドレナリン α_1 受容体刺激 | |

問 248-249 67 歳男性。災害時、救護所に本人のお薬手帳を持参し、医師に処方求めた。
お薬手帳を確認したところ、エナラプリルマレイン酸塩錠を服用していたことが
判明した。救護所にはエナラプリルマレイン酸塩錠が置いていなかった。

問 248 (実務)

エナラプリルマレイン酸塩錠の代替薬として、以下の在庫品目のうち、薬剤師が
医師に提案する最も適切な薬剤はどれか。1つ選べ。

- 1 トラネキサム酸カプセル
- 2 バルサルタン錠
- 3 デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物錠
- 4 ニトログリセリン舌下錠
- 5 セフジニルカプセル

問 249 (薬理)

エナラプリルの薬理作用の機序として、正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1 アンギオテンシン変換酵素を阻害して、アンギオテンシンⅡの生成を抑制する。
- 2 アンギオテンシンⅡ受容体を遮断して、アンギオテンシンⅡによる血管収縮を抑制する。
- 3 キニナーゼⅡを阻害して、ブラジキニン量を増加させる。
- 4 一酸化窒素合成酵素を阻害して、一酸化窒素の生成を抑制する。
- 5 ホスホリパーゼ A₂ を阻害して、プロスタグランジンの生成を抑制する。

問 250-251 61 歳女性。気管支ぜん息で以下の薬剤が処方された。

(処方 1)

フルチカゾンプロピオン酸エステルドライパウダーインヘラー

100 μg ロタディスク

1 回 1 吸入 (1 日 2 吸入) 1 日 2 回 朝夕食後

(処方 2)

プロカテロール塩酸塩水和物エアゾール 10 μg

1 回 2 吸入 発作時

問 250 (実務)

この患者に対する薬剤師の服薬指導として、正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1 処方 1 及び 2 について、吸入療法の手技を定期的を確認した。
- 2 処方 1 について、気管支ぜん息の症状が軽減したらすぐに休薬するよう指導した。
- 3 処方 1 について、発作の状況により自己判断で吸入回数を調節するよう指導した。
- 4 処方 1 について、吸入後は副作用防止のために必ずうがいをするよう指導した。
- 5 処方 2 について、副作用を防止するために、息苦しい程度では使用しないよう指導した。

問 251 (薬理)

処方 1 及び処方 2 に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1 フルチカゾンプロピオン酸エステルは、トロンボキサン A_2 受容体を遮断し、気道過敏性を抑制する。
- 2 フルチカゾンプロピオン酸エステルは、サイトカインの産生抑制作用や好酸球の浸潤抑制作用により気道の炎症を抑制する。
- 3 プロカテロールは、アドレナリン β_2 受容体を刺激し、気管支平滑筋を弛緩させる。
- 4 プロカテロールは、ホスホジエステラーゼを阻害してサイクリック AMP (cAMP) 濃度を高め、気管支平滑筋を弛緩させる。

問 252-253 85 歳女性。ひとり暮らし。交付された処方せんを、保険薬局に持参した。

(処方)

アトルバスタチンカルシウム水和物錠 10 mg	1 回 1 錠 (1 日 1 錠)
フロセミド錠 20 mg	1 回 1 錠 (1 日 1 錠)
アムロジピンベシル酸塩錠 5 mg	1 回 1 錠 (1 日 1 錠)
	1 日 1 回 朝食後 14 日分

問 252 (実務)

処方せん受付時に患者から、最近、薬の飲み忘れと飲み間違いが多いとの訴えがあった。なお、このことは医師に話していないということであった。薬剤師の対応として、適切なのはどれか。2つ選べ。

- 1 お薬カレンダーを利用するなど、飲み忘れを防ぐ方法を指導した。
- 2 処方医には問い合わせず、アトルバスタチンカルシウム水和物とアムロジピンベシル酸塩の配合剤で調剤した。
- 3 飲み忘れた時は、翌日に2回分を飲むよう指導した。
- 4 処方医に上記の件を報告し、一包化を提案した。

問 253 (薬理)

この処方により経過を見たところ、低 K^+ 血症が認められた。その原因となった薬剤の作用機序はどれか。1つ選べ。

- 1 上皮性 Na^+ チャネル遮断
- 2 炭酸脱水酵素阻害
- 3 腎集合管における水の再吸収抑制
- 4 Na^+-K^+ 交換系抑制
- 5 $Na^+-K^+-2Cl^-$ 共輸送系抑制

問 254-255 45 歳女性。婦人科外来にて、以下の薬剤が処方された。

(処方)

リュープロレリン酢酸塩注射用 3.75 mg/バイアル 1 バイアル

問 254 (実務)

この処方の適応となる疾患又は症状として、正しいのはどれか。 2つ 選べ。

- 1 子宮内膜症
- 2 卵巣癌
- 3 閉経前乳癌
- 4 更年期障害
- 5 骨粗しょう症

問 255 (薬理)

リュープロレリンの薬理作用として、正しいのはどれか。 2つ 選べ。

- 1 アロマターゼ阻害による血中エストラジオールの濃度上昇
- 2 下垂体での性腺刺激ホルモンの産生能低下
- 3 下垂体の黄体形成ホルモン放出ホルモン (LH-RH) 受容体持続刺激による受容体の脱感作
- 4 下垂体からのプロラクチンの遊離抑制
- 5 卵巣におけるエストラジオールの産生能亢進

問 256-257 75 歳女性。脊椎椎体骨折と診断された。投薬に際して、以下の服薬指導が行われた。

起床時にコップ一杯の水とともに服用して下さい。水以外の飲食を避け、他の薬剤の服用も避けて下さい。服用後少なくとも 30 分経ってから食事をとり、食事を終えるまで横にならないで下さい。また、歯科を受診する場合には、必ずこの薬を服用していることを医師に伝えて下さい。

問 256 (実務)

上記の服薬指導が行われた薬剤はどれか。1つ選べ。

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1 アレンドロン酸ナトリウム水和物錠 | 2 ラロキシフェン塩酸塩錠 |
| 3 メナテトレノンカプセル | 4 乳酸カルシウム水和物錠 |
| 5 アルファカルシドール錠 | |

問 257 (薬理)

問 256 に記載された薬剤の有効成分の作用機序に関する記述のうち、正しいのはどれか。1つ選べ。

- 1 アレンドロン酸は、活性型ビタミンD存在下にオステオカルシンの生成を促進し、骨形成を促進する。
- 2 ラロキシフェンは、骨の上皮小体ホルモン (PTH) 受容体にアゴニストとして作用し、骨吸収を抑制する。
- 3 メナテトレノンは、カルシトニンの分泌を促進し、骨芽細胞の機能を亢進して骨形成を促進する。
- 4 乳酸カルシウムは、ヒドロキシアパタイトの結晶形成を促進し、破骨細胞による骨吸収を抑制する。
- 5 アルファカルシドールは、腸管での Ca^{2+} 吸収を促進し、血清カルシウム値を上昇させる。

問 258-259 65 歳男性。自宅トイレで転倒し、救急搬送された。右中大脳動脈閉塞による脳梗塞と診断され、以下の薬剤が投与された。

(処方)

アルテプラゼ（遺伝子組換え）静注用 34.8 万国際単位 /kg
総量の 10% は急速投与、残りは 1 時間かけて投与

問 258 (実務)

この治療に関する記述のうち、正しいのはどれか。 2 つ選べ。

- 1 虚血部位の血流が再開し、出血性梗塞が現れることがある。
- 2 再投与によりアナフィラキシーショックが起こる可能性があるので、観察を十分に行う。
- 3 発症 6 時間後でも投与開始可能である。
- 4 血液凝固阻止作用を有する薬剤あるいは血小板凝集抑制作用を有する薬剤との併用が推奨されている。

問 259 (薬理)

アルテプラゼに関する記述のうち、正しいのはどれか。 1 つ選べ。

- 1 セリンプロテアーゼを阻害して、血栓形成を抑制する。
- 2 フィブリノーゲンを分解することにより、血栓を溶解する。
- 3 フィブリンに対する親和性が高く、血栓上でプラスミノーゲンをプラスミンに転化させる。
- 4 α_2 プラスミンインヒビターによる不活性化を受けやすい。
- 5 投与後の出血症状には、プロタミンが奏効する。

問 260-261 63 歳女性。関節リウマチと診断され、処方 1 で治療を行った。

(処方 1)

サラゾスルファピリジン腸溶錠 500 mg	1 回 1 錠 (1 日 2 錠)
	1 日 2 回 朝夕食後
プレドニゾン錠 5 mg	1 回 2 錠 (1 日 2 錠)
	1 日 1 回 朝食後

問 260 (薬理)

サラゾスルファピリジンに関する記述のうち、正しいのはどれか。 2つ 選べ。

- 1 T 細胞及びマクロファージでのサイトカイン産生を抑制する。
- 2 IgM の S-S 結合切断作用を示す。
- 3 おとりのヒト型可溶性腫瘍壊死因子 (TNF) 受容体として働き、TNF- α の作用を抑制する。
- 4 ピリミジン合成を阻害し、細胞増殖を抑制する。
- 5 関節リウマチ以外に潰瘍性大腸炎に用いられる。

問 261 (実務)

処方1で治療を行ったが、10週間後も効果がなく、処方2への変更が検討されている。処方2の服薬指導として、誤っているのはどれか。1つ選べ。

(処方2)

メトトレキサートカプセル2 mg 1回1カプセル

1週間3回 土曜日の朝夕食後、日曜日の朝食後

- 1 1週間のうちの特定の日に服用することを強調して、誤用、過量投与を防止する。
- 2 効果発現までには時間がかかることを説明する。
- 3 間質性肺炎を発症することがあるので、発熱、咳嗽、呼吸困難などの症状があらわれた場合には、直ちに連絡するように説明する。
- 4 口内炎があらわれた場合には、直ちに連絡するように説明する。
- 5 関節リウマチの治療において、他剤が無効の場合にのみ使用すると説明する。

問 262-263 56 歳男性。骨髄内臍帯血移植が行われた。移植後、真菌感染症が疑われ、以下の処方について主治医から医薬品情報管理室に相談があった。

(処方)

注射用アムホテリシン B リポソーム製剤 50 mg/バイアル 3 バイアル

注射用蒸留水 36 mL

ブドウ糖注射液 5% 250 mL

1 回 昼 4 時間かけて点滴静注

問 262 (実務)

主治医からの相談に対する医薬品情報管理室の薬剤師の対応として、誤っているのはどれか。1 つ選べ。

- 1 添付文書によりアムホテリシン B リポソーム製剤の用法・用量を確認した。
- 2 アムホテリシン B リポソーム製剤の調製法と注意点を伝えた。
- 3 医薬品適正使用のために、真菌感染症の診断が確定した後で処方するように提案した。
- 4 投与中に発熱、悪寒、悪心などが発現した場合、点滴を一時中断し、患者の様子を見るように伝えた。
- 5 副作用防止のため、腎機能、肝機能、血清電解質の検査を定期的に行うように提案した。

問 263 (薬理)

アムホテリシン B に関する記述のうち、正しいのはどれか。1つ選べ。

- 1 エルゴステロール生合成を阻害し、真菌細胞膜合成を抑制する。
- 2 真菌細胞膜のエルゴステロールに結合し、真菌細胞膜を障害する。
- 3 真菌細胞壁を構成する β -グルカン生合成を阻害する。
- 4 真菌細胞内でフルオロウラシルに変換され、真菌の DNA 及び RNA 合成を阻害する。
- 5 スクアレンエポキシダーゼを活性化し、エルゴステロールの分解を促進させ、真菌細胞膜を障害する。

問 264-265 36 歳女性。術後の病理検査により卵巣癌 Ic 期と診断され、パクリタキセルとカルボプラチンの併用療法が予定されている。処方 1 及び 2 は、この化学療法に対する支持療法である。

(処方 1)

グラニセトロン塩酸塩注射液 3 mg/バイアル 1 バイアル

デキサメタゾンリン酸エステルナトリウム注射液 6.6 mg/バイアル 3 バイアル

化学療法第 1 日目 パクリタキセルとカルボプラチンの投与前、点滴静注

(処方 2)

デキサメタゾン錠 0.5 mg 1 回 8 錠 (1 日 16 錠)

化学療法第 2 日目及び 3 日目 1 日 2 回 朝昼食後

問 264 (実務)

処方 2 のデキサメタゾン錠の投与目的として、正しいのはどれか。1 つ選べ。

- 1 化学療法に伴う骨髄抑制の軽減
- 2 化学療法に伴う消化器症状 (悪心・嘔吐) の軽減
- 3 化学療法に伴う感染症の予防
- 4 抗炎症作用による化学療法の効果の増強
- 5 化学療法に伴う血栓形成の予防

問 265 (薬理)

この患者に使用が予定されている薬物に関する記述のうち、正しいのはどれか。

2つ選べ。

- 1 パクリタキセルは、微小管の安定化を引き起こし、有糸分裂を阻害する。
- 2 カルボプラチンは、癌細胞の DNA を架橋し、増殖を抑制する。
- 3 グラニセトロンは、ドパミン D₂ 受容体を遮断し、消化管運動を調整する。
- 4 デキサメタゾン^①は、タンパク同化作用と鉱質コルチコイド作用が共に強力である。

一般問題（薬学実践問題）【薬剤／実務】

問 266-267 29 歳女性。以下の処方せんを保険薬局に提出し、調剤を依頼した。

(処方)

クロロプロマジン塩酸塩錠 12.5 mg 1 回 1 錠 (1 日 3 錠)
1 日 3 回 朝昼夕食後 7 日分

問 266 (実務)

調剤前に患者から情報収集したところ、妊娠の可能性があるが、医師には伝えていないとのことであった。添付文書には「妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい」との記載がある。薬剤師の対応として、最も適切なものはどれか。1つ選べ。

- 1 処方せん通り調剤し、妊娠が確定したら相談するよう伝える。
- 2 「投与しないことが望ましい」との記載であり、禁忌ではないのでそのまま調剤する。
- 3 医師に妊娠の可能性のあることを伝え、処方変更の有無と今後の対応を確認する。
- 4 薬剤師として投与すべきではないと判断し、患者に説明した上で、調剤を行わない。
- 5 調剤を保留し、産婦人科の受診を勧める。

問 267 (薬剤)

妊娠時の薬物動態に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1 薬物のタンパク結合に関与する血清中アルブミン濃度は、非妊娠時に比べて上昇する。
- 2 大部分の薬物は、能動輸送により血液胎盤関門を透過する。
- 3 胎盤にはシトクロム P450 等の薬物代謝酵素が発現し、胎児の未発達な代謝能力を補っている。
- 4 胎児のエネルギー源であるグルコースは、胎盤に発現しているグルコーストランスporterによって母体から供給される。

問 268-269 12歳女児。てんかんの治療のため、以下の薬剤が処方された。

(処方)

バルプロ酸ナトリウム散 20% 1回 200 mg (1日 400 mg) [原薬量]

1日2回 朝夕食後 14日分

問 268 (実務)

秤取すべき 20% 散の全量は何 g か。1つ選べ。

1 1 2 2 3 4 4 14 5 28 6 56

問 269 (薬剤)

バルプロ酸の血中濃度を低下させ、てんかん発作が再発することがあるため、禁忌となる抗生物質の種類はどれか。1つ選べ。

- 1 アミノグリコシド系
- 2 カルバペネム系
- 3 セフェム系
- 4 テトラサイクリン系
- 5 マクロライド系

問 270-271 入院中の糖尿病患者の喀痰よりメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) が検出されたため、バンコマイシン塩酸塩注射液を投与することとなった。

問 270 (実務)

この治療に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1 副作用として視力障害が現れることがあるので、観察を十分に行うとともに、患者に対して目がかすむ等を感じた場合はすぐに連絡するように説明した。
- 2 急性腎不全等の重篤な腎障害が現れることがあるので、投与中は腎機能検査値に注意することを医師に提案した。
- 3 ヒスタミン遊離によるレッドネック症候群を引き起こすことがあるため、60分以上かけて点滴静注するように医師に情報提供した。
- 4 時間依存型の殺菌効果を示すため、有効血中濃度を長時間維持することが必要である。

問 271 (薬剤)

この患者に、バンコマイシン塩酸塩 1 g を点滴静注して血清中濃度を測定したところ、投与終了 3 時間後に 28.3 $\mu\text{g/mL}$ 、11 時間後に 6.9 $\mu\text{g/mL}$ であった。バンコマイシンの消失速度定数 (h^{-1}) に最も近い値はどれか。1つ選べ。

- 1 0.2 2 0.4 3 0.6 4 0.8 5 1.0

問 272-273 50 歳男性。てんかん治療のため以下の処方に従い服薬を続けている。定常状態時の血清中フェニトイン濃度を測定したところ $12 \mu\text{g/mL}$ であり、てんかん発作は安定している。

(処方)

フェニトイン散 10% 1 回 1.25 g (1 日 2.5 g) [製剤量]
1 日 2 回 朝夕食後 28 日分

問 272 (実務)

この治療に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1 過量投与により、眼振、構音障害、運動失調、眼筋麻痺などの症状が出現することがあるので十分観察する。
- 2 フェニトインの薬理作用は、血清タンパク質と結合していない遊離形濃度ではなく、総血清中濃度と関連する。
- 3 定期的に肝・腎機能検査、血液検査を行うことが望ましい。
- 4 用量を増加させると、腎尿細管分泌が飽和するため、用量と血清中濃度の関係は非線形となる。

問 273 (薬剤)

定常状態におけるフェニトインの体内からの消失速度は Michaelis-Menten 式で表される。この患者における最大消失速度 (mg/day) に最も近い値はどれか。1つ選べ。ただし、Michaelis 定数を 8 mg/L 、バイオアベイラビリティを 100% とする。

- 1 150 2 240 3 420 4 1,500 5 2,400 6 4,200

問 274-275 65 歳男性。甲状腺機能亢進症の治療を受けている。心房細動による頻脈のため、ジゴキシンによる治療が開始された。

問 274 (実務)

この治療に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1 ジゴキシンは治療域が狭い薬物なので、治療薬物モニタリング (TDM) を行う。
- 2 甲状腺機能亢進症の患者は、ジゴキシンの血中濃度が高くなり作用が増強することがあるので注意する。
- 3 ジゴキシンは主に肝代謝により消失するので、肝障害時には減量する必要がある。
- 4 悪心、嘔吐、不整脈などの中毒症状に注意する。

問 275 (薬剤)

この患者におけるジゴキシンの全身クリアランスは 4.0 L/h、経口投与時のバイオアベイラビリティは 80% である。定常状態平均血中濃度を 1.0 ng/mL に維持するための 1 日当たりの経口投与量 (mg/day) はいくらか。1つ選べ。

- 1 0.004 2 0.032 3 0.096 4 0.120 5 0.250

問 276-277 病院薬剤部において、以下の A～D の注射剤を購入して保管することになった。

	A	B	C	D
製剤名	注射用アムホテリシン B	アルプロスタジル注射液	人血清アルブミン製剤	ジアゼパム注射液
分類	毒薬	劇薬	特定生物由来製品	向精神薬
添加物	デスオキシコール酸ナトリウム 無水リン酸一水素ナトリウム 無水リン酸二水素ナトリウム	精製ダイズ油 高度精製卵黄レシチン オレイン酸 濃グリセリン 水酸化ナトリウム	アセチルトリプトファン カプリル酸 水酸化ナトリウム 炭酸水素ナトリウム 氷酢酸 塩化ナトリウム	ベンジルアルコール プロピレングリコール 無水エタノール 安息香酸 水酸化ナトリウム pH 調整剤

問 276 (実務)

保管管理方法について、正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1 A は、常に施錠して保管しなければならない。
- 2 B は、常に施錠して保管しなければならない。
- 3 C は、室温で保存可能であり、その有効期間は検定合格の日から 3 年である。
- 4 D は、医療従事者が常時在室するなど注意している場合を除き、施錠して保管しなければならない。

問 277 (薬剤)

添加物の中に界面活性剤が乳化剤として含まれているのはどれか。1つ選べ。

- 1 A 2 B 3 C 4 D

問 278-279 医薬品として未承認のヒドロキノンの軟膏剤を院内製剤として調製してほしいと、皮膚科の医師から薬剤部に依頼があった。

問 278 (実務)

この製剤に関する記述のうち、誤っているのはどれか。1つ選べ。

- 1 病院内の審査委員会で承認を得て調製し、使用した。
- 2 使用する患者からインフォームド・コンセントを得た。
- 3 調製した病院の患者のみに使用できる。
- 4 効果及び副作用の監視、評価を行った。
- 5 副作用が生じたとき、医薬品副作用被害救済制度の対象となる。

問 279 (薬剤)

薬剤部で油脂性基剤を用いて調製することになった。基剤として、正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1 バニシングクリーム
- 2 コールドクリーム
- 3 マクロゴール軟膏
- 4 プラスチベース
- 5 白色ワセリン

問 280-281 外科病棟の看護師から医薬品情報管理室に「HIV 感染患者の血液が付着した金属製の作業台の消毒に何を用いたらよいか」と問い合わせがあった。

問 280 (実務)

適切な消毒剤はどれか。1つ選べ。

- 1 消毒用エタノール
- 2 1% 次亜塩素酸ナトリウム水溶液
- 3 10% ポビドンヨード水溶液
- 4 0.05% クロルヘキシジングルコン酸塩水溶液
- 5 0.05% ベンザルコニウム塩化物水溶液

問 281 (薬剤)

消毒に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1 物質中のすべての微生物を殺滅又は除去することをいう。
- 2 消毒法は、化学薬剤を用いる化学的消毒法と、湿熱や紫外線などを用いる物理的消毒法に分けられる。
- 3 消毒剤は、一般に 20℃以上で使用し、定められた接触時間を守る必要がある。
- 4 エンドトキシンを不活化できる。

問 282-283 在宅患者訪問薬剤管理指導の際、患者の家族よりアスピリン腸溶錠 100mg を嚥下しにくいので粉碎して飲ませても良いかとの質問があった。

問 282 (実務)

回答内容として、最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- 1 家族が粉碎して服用させてください。
- 2 薬局に戻り粉碎し分包したものをお届けします。
- 3 粉碎せずにぬるま湯に溶かして服用させてください。
- 4 医師に処方変更を依頼します。
- 5 服用できないことを次回の診察時に医師に相談してください。

問 283 (薬剤)

この錠剤には以下の5つの添加剤が含まれる。腸溶性コーティング剤として使用されているのはどれか。1つ選べ。

- 1 カルメロース
- 2 トウモロコシデンプン
- 3 メタクリル酸コポリマー
- 4 マクロゴール 6000
- 5 タルク

問 284-285 70 歳男性。マイコプラズマ肺炎の治療のため、以下の薬剤が処方された。

(処方)

エリスロシンドライシロップ 10% ^(注1) 1回 2 g (1日 8 g) [製剤量]

ビオフェルミン R 散 ^(注2) 1回 0.75 g (1日 3 g) [製剤量]

1日 4回 朝昼夕食後、就寝前 14日分

(注1：一般名は、エリスロマイシンエチルコハク酸エステル)
(注2：耐性乳酸菌製剤)

問 284 (実務)

両薬剤をそれぞれ秤量した後、分包する方法として、最も適切なのはどれか。

1つ選べ。

- 1 乳鉢と乳棒を用いて混和し、分包する。
- 2 乳鉢とスパテルを用いて混和し、分包する。
- 3 混和せずに 2 段分割 (2 度撒き) で分包する。
- 4 混和せずに別々に分包する。

問 285 (薬剤)

エリスロシンドライシロップはプロドラッグ製剤である。この場合のプロドラッグ化の目的として、正しいのはどれか。1つ選べ。

- 1 胃内での溶解性の向上
- 2 胃内での分解の抑制
- 3 小腸粘膜透過性の改善
- 4 肝初回通過効果の回避
- 5 細菌内への取り込みの促進